

ナリスのラッチと ゆめのぬいぐるみ



成人向け

こどもには
みせないでね

さく・日向まくら
え・ナラシダ

Nawoshida

すべてのちゃんに、最大限の幸福を。

Nawoshida®

☆☆ キャラクター紹介 ☆☆

くぬぎもりラッチ

ぬいぐるみが大好きな、元気いっぱいのリスの男の子。
動くぬいぐるみたちといっしょにいつも遊んでいます。

動くぬいぐるみたち

ラッチの前では自由に動き回るぬいぐるみたち。
どうして動いているかはわかりませんが、みんな
ラッチのことが大好きです。

ラッチのおちんちん

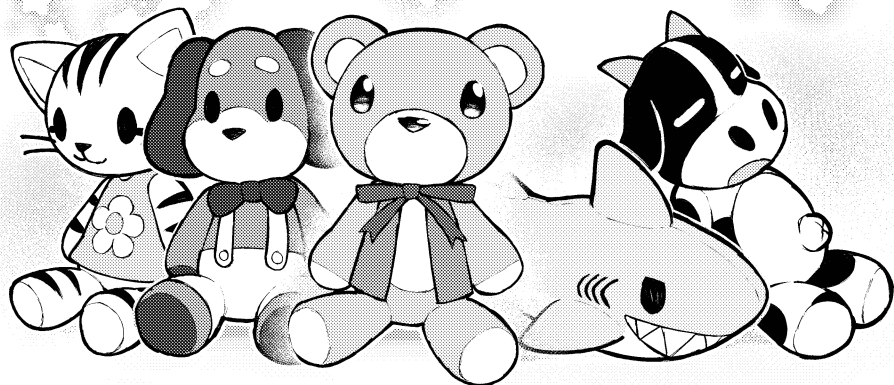
ぬいぐるみたちが時々遊んでいる、もう一人のお友だち。
ラッチははずかしがってかくしますが、この子自身は
いつもかまってほしそうにパンツにひそんでいます。

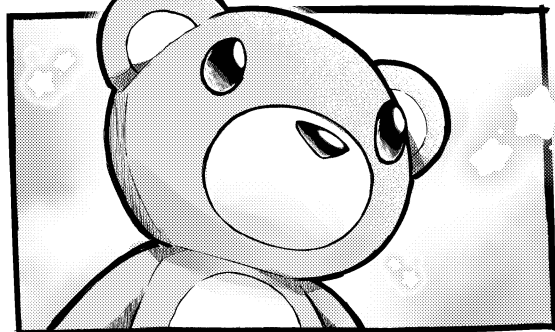
子リスのラッヂと ゆめのぬいぐるみ

☆ もくじ ☆

マンガ本編 5P～

原作シナリオ 32P～





はあ、

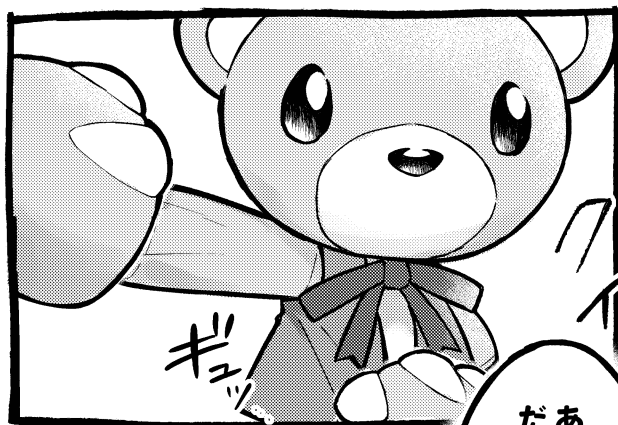
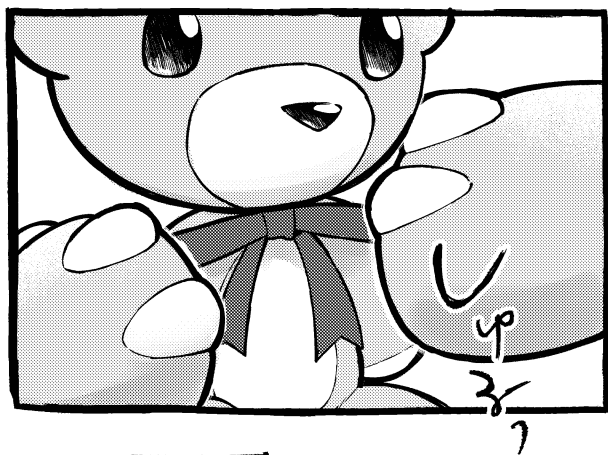
わあっわっ！
まだいてくれたっ
よかった〜!!!

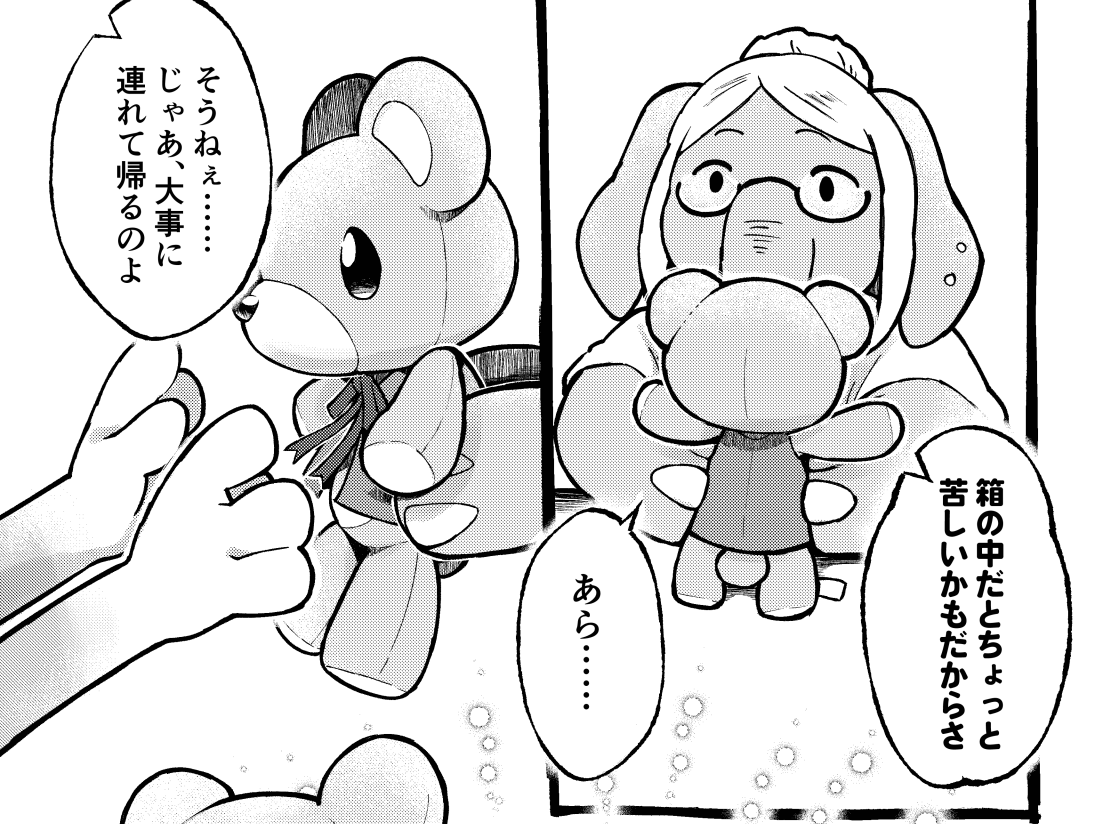
ああ、その子ねえ
ずっと君が欲しそうに
してたものだから、

やっとおうちに
帰れるね……!!

特別に取っというて
あげてたのよ！

そうなの？
おばさん、
ありがとう!!





ぼくは
ラッチ、

よろしくね、
くまさん♪



みんな、
ただいまっ！

新しいお友だちを
しょうかいするね！

この子はね、
くまさん！

くまさん！
こっちはさめさん

昔から友だち
なんだ〜！

こっちは
うしさんだよ
いつもおひるね
してるのっ

そして、こっちは
いぬさんと
ねこさんだよ！

みんな、とっても
いい子だから、

なかよくして
あげてねっ！

そしてねー、
今日はパパもママも
お出かけ中なんだー

だから今日は
ほくだけ、おるすばん
なんだよね！

あっ、起きた！





こんにちは、
みなさん!!

くまさんも
おはなし
できるの!!?

ここに来たら
できちゃいました

えっと
なんだか、

そう!
ボクたちが
いるから!!

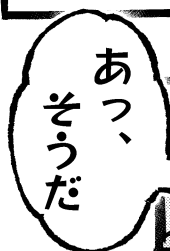
そりゃあ
わたしたちが
いるからね

えへへ...



そっか……!!

みんながいてとお話してできるようになるんだね……



もう一人大事な友だちがいるんだぜ



くまさん、実はな！



えっ？



もー、ラッチは
いつもそれ
ばかり!!

さめさん、
スポン下ろして
あげてっ!

み……っ
みんな……

やっぱり、ボク
はずかしいよ……

だいじょうぶ!
その子だつて、
みんなとお友だち
だもん!

オツケイ!
今出してやるぞ!

わっあっ……
ほ、ボク自分で
出せるからっ!!



しょうかいするね!
この子の名前は
おちんちゃん!!

うん!
ラッチのおまたに
住んでる子でね、

とっても
はずかしがり屋
さんのよ

はずかしがり
屋さん……

お……
おちんちゃん
………?



まあ、今呼んで
やるから、ちよつと
待ってなよ!

う、うん……

おーい、おチンチン
新しい子が来てんぞ
出てこいよ〜

ひさしぶりだね！
おちんちんさんっ！

おおー...

ぷるんっ♡♡♡

むむっ……これはまだ
おちんちんさんは
ねぼけてるのかも……

じゃあ、起こして
やろうぜ！

うしさんと
おチンチン、
先に起きるのは
どっちだろうな！

あれっ？

たり…

だ、ためだよ、その……
びびっくりさせたら
かわいいそう、だし……

74
を…

じゃあ、そつと
起こしてあげれば
いいってワケね！





おねむなのは
わかるけどもね

おちんちんくん、
そろそろ起きましょ

それならわたしに
まかせなさい!

え、へん♪



ほーら、おはようの
ハグをしてあげるっ♪

いじい、いじい
ぽーいぽーい……

おちんちんくん
起きてくれたわ!

シャーン

ほらほらっ
ちゃんとあいさつ
してやりなよ

わや!!

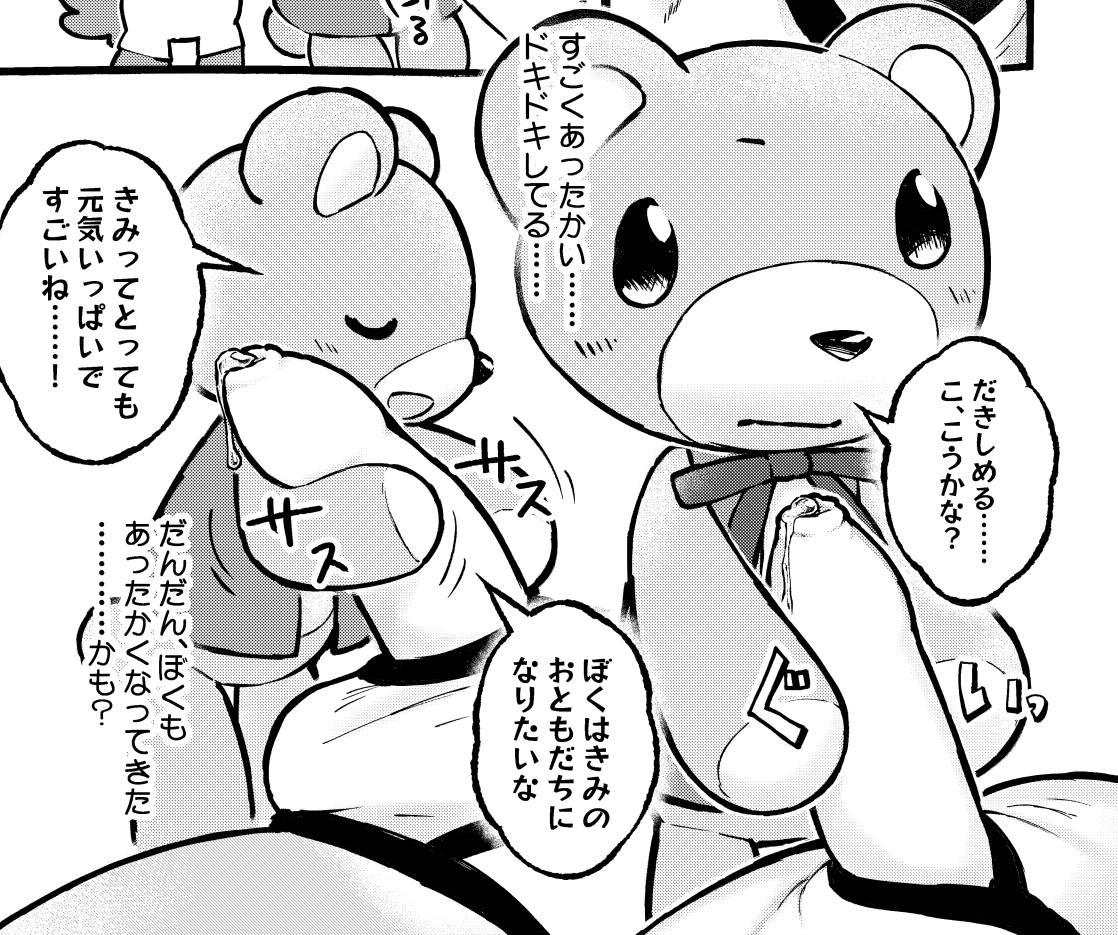
よろしくね?

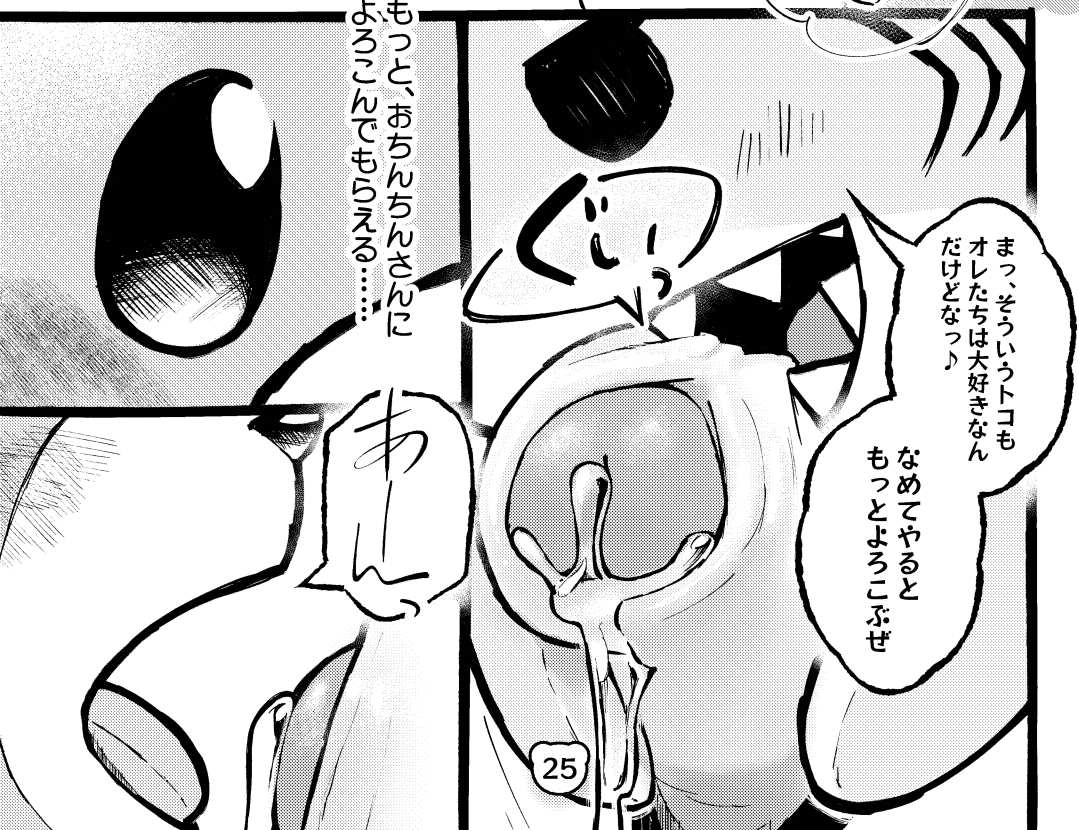
オロ

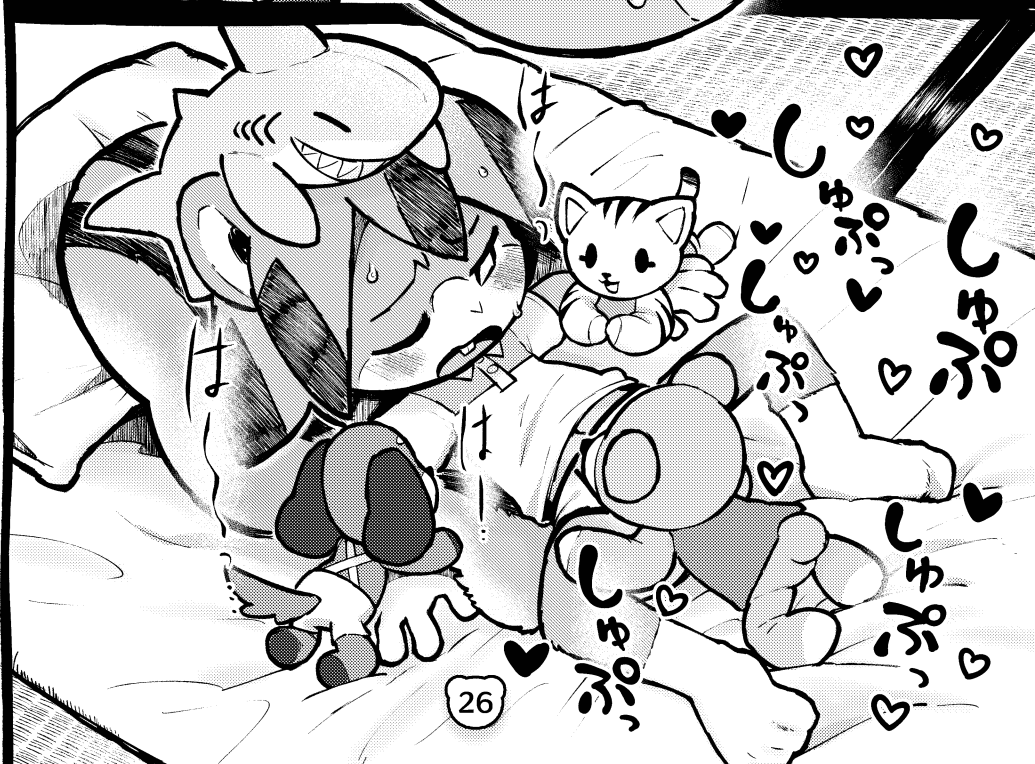
オロ...

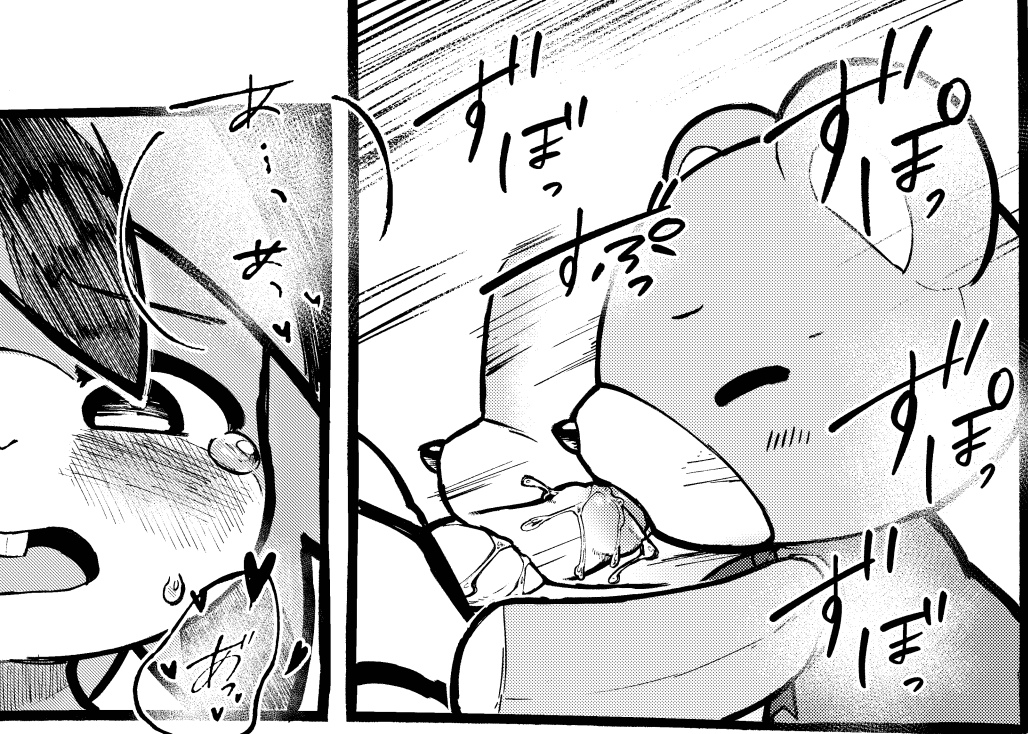
あつ、えつと……
はじめまして

す、すごい
ふるえてる
……







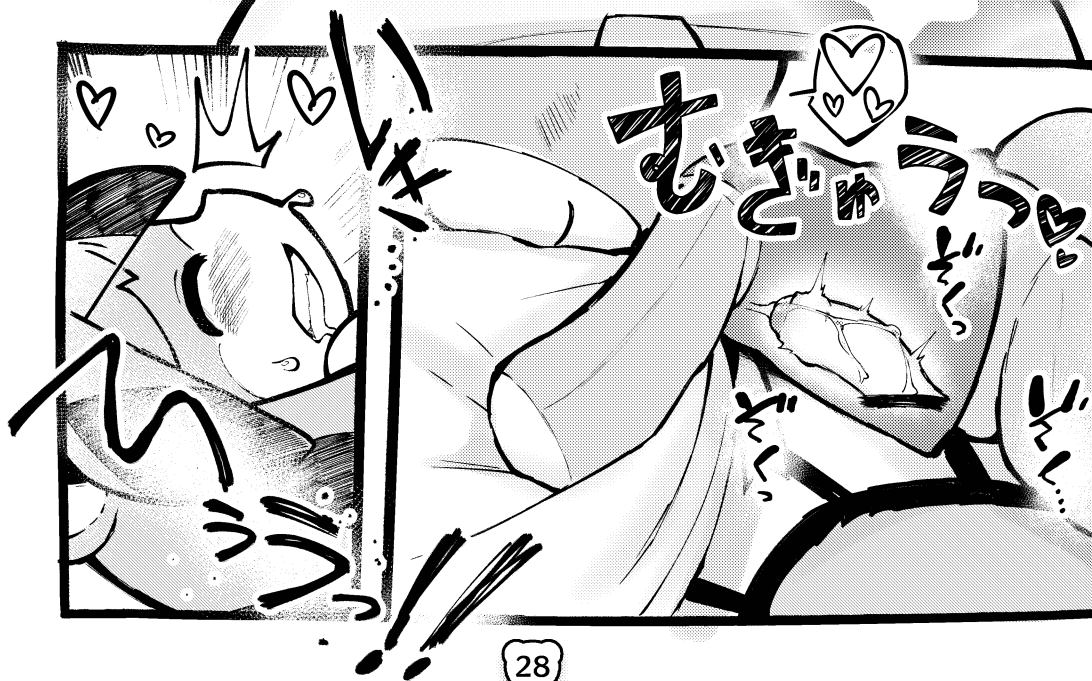


もっとこの子のこと、
ふかく知ってあげたい……
もっと、もっといつしよに
いてあげたい……



ラッチさん、ぼく、
おちんちんさんと、

もっと、たくさん
なかよくなりたいな
.....♡



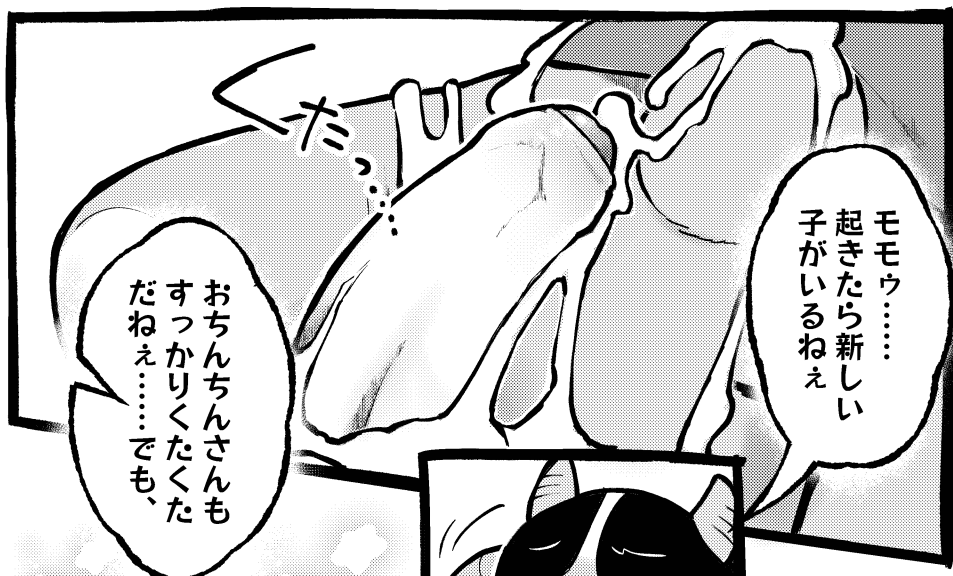


これ以上されたらっ
も、もう………

くっ……
くまさん……

まって、
だ、だめっ……

でちゃ……
うら……

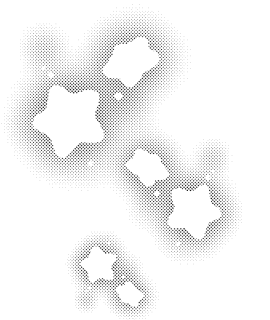


☆つづく☆

31

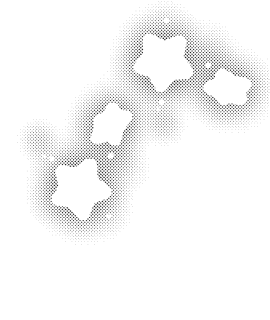


30



子リスのラッヂと ゆめのぬいぐるみ

原作シナリオ：日向まくら



注意：以降のページは、日向まくら氏に依頼して納品されたマンガ本編の原作シナリオ小説をそのまま載せています。一部の設定や記述は本編執筆時に再構成・再編集したため、本編との齟齬が生じている箇所があることをご了承ください。

今日は楽しみなお休みの日。
大事な友達を迎えに行く日です。

もうすぐお昼、外はキラキラと陽の光に溢れて暖かく。

リスの男の子、ラッチは元気に街を歩きます。

家から少し遠いけれど1人でも大丈夫。

車に気を付けて、歩道をまっすぐ。

横断歩道を渡ったら、次は大きな歩道橋。

駅が見えてきたら、次の交差点を左です。

ここから先は車が入ってこない道。

安心して歩けます。

「もうすぐ！」

ついつい声が出てしまいました。

走ってはいけないよ、と沢山言われてきたけれど。

もう我慢なんて出来るわけがないのです。

今日だけは仕方ないねと笑ってもらえる気がします。

目を輝かせ、ラッチは走り出しました。

大人たちの隙間を走り抜け、たどり着くのはお菓子屋さんの次の次。

大きなビル2つに挟まれた、小さなおもちゃ屋さん。

そのショーウィンドウの中、くまさんはラッチを待っていました。

「良かった……！ まだ居てくれた！」

三十センチくらいのデディベアが、微笑んでくれた気がします。

貯めたお小遣いを握りしめて、お店へ飛び込んだラッチ。

大きな声で店員さんをお願いしました。

「おじさん、この子、この子ください！」

「わかりました！」

店員さんはあつという間にくまさんをオシャレさんに飾ります。

リボンを首に巻いて。

可愛いジャケットを羽織らせて。

大きな箱に――。

「まって！ 苦しいかもしれないから、抱っこして帰ってもいい？」

「それじゃあ、このまま。大切に連れて帰ってあげてね」

「うん！」

ここを通るたび、気になっていたくまさんが、ついに自分の胸の中に飛び込んできました。

うれしくて、うれしくて、ラッチはぎゅうと抱きしめます。

「おじさん、ありがとう！」

お店の人がありがとうございます、と言う前に元気よくラッチは頭を下げて。

くまさんと一緒に店を飛び出しました。

「帰ろう、くまさん！」

その笑顔は大好きなひまわりの花のよう。

茶色いくまさんも同じように笑っている気がしました。

二人はまっすぐに家へと帰ります。

みちくさんなんて、とんでもありません。

だって、くまさんを友達に紹介しなければならいのですから。

「この公園の隣がボクの家だよ、くまさん！」

本当にあつという間。
来るときはちよつと大変だと思ったのに。
くまさんと一緒にの帰り道は、あつという間でした。

「ただいま！」

玄関に靴をぼーんと脱ぎ捨てて。
ママに怒られることも忘れて、自分の部屋へとドタドタと走ります。
お屋に家にいるのは、ラッチと友達だけ。
だから、ちよつと悪い子でも大丈夫。

ばーん！ とドアを開ければ、ラッチの部屋。

「みんな……ただいま！
紹介するよ、くまさん！」

友達みんなが、ラッチとくまさんを見つめています。

「よろしくね！」

ラッチは、くまさんを友達一人一人の鼻先に近づけ挨拶させます。

最初の友達は、さめさん。

ずいぶん昔に出会った初めての友達。
背中に汚れた跡がある、ちよつとくたびれた鮫のぬいぐるみ。

ふにやり、と潰れるようにお辞儀をして。

次の友達は、ねこさん。

いぬさんと一緒にやってきた、くたくたの友達。
イタズラ好きで他の子と喧嘩しちゃうことがあるみたい。

いぬさんがいつも間に入って止めてくれます。

いぬさんも一緒にご挨拶。

二人の鼻がくまさんの鼻に触れました。

そして、うしさん。
うしさんは、いつもお腹を出して眠っています。
今日もお昼寝中。

くまさんの手を伸ばして、ぽんぽん！ とお腹を優しく叩けば、
ゆっくり目を覚まします。
目を覚ましてでも細い目は、開いているか閉じているか分からない
けれど。

お鼻をくつつけてくれたので、もう仲良しです。

「くまさんをよろしくね！」

ラッチが皆にくまさんを掲げて見せます。
「うん！」と皆が声を上げたようでした。

その時です。

声が聞こえてきました。

「ラッチ、今日は誰もいないの？」

「今日はゆつくり遊べる？」

「楽しみだね」

くまさんを抱いたラッチは、困った顔でベッドに腰掛けます。

声をかけてきたのは、ぬいぐるみ達。

家族が居ない時間だけ、彼らは自由に動けるのです。

ふわりと浮かんださめさんが、ラッチの膝の真ん中に乗りました。
ねこさんも、いぬさんも膝に頸を乗せます。

「くまさん、こんにちば！」

三人はくまさんを見上げて楽しそうな声をあげました。

「こん、にちは」

くまさんが、手をふにふにと動かしながら頭を下げました。

ラッチは、慌ててくまさんを見下ろします。

三人は昔からお話しできました。

くまさんは今日初めて、お家にやってきた子。
お話出来るなんて思っていました。

「くまさん、お話できるの!？」

「なんだか、ここに来たら、できました」

「そうだよ! ボク達がいるから!」

「ぼくもいるから!」

「わたしもだよ」

さめさん達はラッチの膝の上に並んで、くまさんを待っているよう。
ラッチがそとと、くまさんを膝の上に降ろします。

「こんにちは!」

みんながもう一度挨拶。

手やヒレを繋いで、なかよしの踊り。
ラッチも嬉しそうに笑っています。

「くまさん、あと一人友だちがいるんだ! 紹介するね」

さめさんがふわ、と浮き上がってヒレをパタパタと振ります。

「ラッチ、はやく!」

「さめさん、でも……」

「くまさんが来たのに、紹介しないのは良くないよ!」

「うん、そうだよ!」

「かわいそう」

ラッチの頬がだんだん赤く染まっていきます。
だって――。

「ズボン、おろしてあげて!」

いぬさんが言いました。

「起きてるかなあ?」

ねこさんが、ズボンの上からもう一人の友達を優しく撫でます。

「わっ! ねこさん、だめだよ、びっくりしちゃう」

「えー、でも、起こしてあげようよ」

「もう……」

「うしさんも起こしてあげよう! ラッチのちんちんさんと、どっちが先に起きるかな?」

さめさんがズボンのボタンに、フェルトの牙をひっかけて外そうとします。

「まって、ラッチがあけるから!」

慌ててラッチは手を伸ばして、ズボンのボタンを開きます。
ベッドから少し立ち上がり、ストン、とズボンを足元に落とすと
真っ白のブリーフがあらわになりました。

「今、紹介するね!」

ねこさんが、小さく膨らんだブリーフを、こねこねと揉み始めます。

「まって、まって！」

「ラッチ、いつもそればかり！ 今日はいくまさんも居るし、ぼくもがんばるよ！」

犬さんも猫さんといっしょにブリーフを撫で始めました。

「えっ……」

くまさんは、驚いて動けません。

初めての出来事、初めての様子でびっくりしてしまっただけでしょう。

「くまさん、大丈夫だよ。」

ラッチはここにもう一人友達を隠してて、中々会わせてくれないんだ。恥ずかしがり屋さんなんだって」

「恥ずかしがり屋さん……」

くまさんは両手でお顔を隠します。

「そう！ そんな感じ！」

ねこさんが笑います。

「うんうん！ ラッチの友達、いつも顔を隠しちゃってるんだ」

いぬさんが頷いています。

「ばんつ、で……？」

「ばんつも、ズボンもそうだよ！ でもね！

この下！」

さめさんがばんつの穴に頭を突っ込んで、ぼくん！ と友達を啜えましました。

「わっ、食べちゃうの！？」

くまさんが慌てます。

「ちがうよ、今ね、連れて来るの。」

恥ずかしがり屋さんだから、そつとさめさんが連れてきてくれるんだよ」

いぬさんが、ちよつとかしい顔で教えてくれました。

「さ、さめさん、だめ、だめ！ 恥ずかしがってるから！」

「でも、もう、ここにいるよ！」

しゅぽん、とばんつの穴から飛び出したのは、小さなちんちんさん。ちんちんさんは、ラッチの小指より少し太きいくらい。とつても小さな友達でした。

「わ、わっ！ ちんちんさん、お外に居る」

「ひさしぶり、ちんちんさん！」

さめさんが、嬉しそうに体を擦り付けます。

「んうっ」

ラッチが体をよじつて声をあげました。

「ちんちんさん、やさしくしてあげて。

お話するだけだよ、今日は」

「やだ！」

ねこさんが頬を膨らませました。

両手でちんちんさんを抱きしめると、よいしょ、よいしょと体を上下に動かします。

「わ、わっ！ ちんちんさん、泣いてる」

「くまさん、大丈夫だよ。」

ちんちんさんは嬉しいと泣いちゃうみたい。変な子だよね」

さめさんが優しく教えてくれました。
だから、安心。

「くまさんも、挨拶してみよう？」

まだお顔隠してるけど、くまさんが来たらきつと見せてくれるよ」

「みんな、みんな待って、ラッチ恥ずかしいよ。」

ちんちんさんも困って……」

「困ってるのはラッチだよ！ ちんちんさん、ほら、こんなに大きくなってるもん。」

お顔見せてくれそう！」

さめさんがヒレでちんちんさんの先端を撫でると、ぞくり、とお漏らしの感覚が走ってきました。

「うう！」

「ラッチ、さん？ だ、だいじょうぶ？」

くまさんは困った顔。でも、ちんちんさんは喜んでるってみんな言っています。

「だいじょうぶ、くまさん」

「それなら、挨拶してくるね！」

くまさんも、勇気が出てきました。

ラッチのちんちんに近づけば、ねこさんがそとちんちんさんを渡してくれました。

暖かくて大きくて、ドクドクと音が聞こえる気がします。

緊張、しているのかな？

くまさんは、大丈夫だよ、とちんちんさんを抱きしめます。

「わっ」

ラッチの声が聞こえます。なんだか、嬉しそう。

ちんちんさんが嬉しいとラッチも嬉しいようです。
だから、くまさんは、しつかりちんちんさんを抱きしめました。

「そうそう！ ちんちんさんのお顔、見えそう！」

さめさんが応援しています。

くまさんが、よいしょ、と体を動かすとちんちんさんのお顔が
ついに見えました！

ピンクでかわいい、飴玉みたいなお顔。

ちゅるりと透明な雫でお化粧して、ぶるぶると笑っています。

「こんにちは、ちんちんさん！」

くまさんは強く抱きしめました。

「あっ！ んんっ、だめ、くまさん、くまさん！

あの、あのね、ちんちんさんが……！」

ラッチがちんちんさんを抑えようとします。

「だめだよ、くまさんは挨拶中！」

さめさんが右手を、ねこさんが左手をつかんで、ちんちんに触れなくしてしまいました。

「ふ、2人とも！」

いぬさんが言います。

「なにかきてる！」

「くまさん、そしたらお口をね、ちんちんさんにチュってしてあげて！
噴水がこぼれると、ラッチが困っちゃう」

いぬさんは優しい先輩。丁寧に教えてくれました。

「わかった！」

かぶつと、くまさんがちんちんさんにキスした時です。

「う、あああつ、でちゃ、もれちゃうよお！」

ラッチの声とともにどくんどくんと、と大きくちんちんさんが動くと、
噴水が吹き上がりました。

公園の水飲み場で、水を出しすぎてしまったように。

びゅう、と水しぶきが上がります。

「こぼれちゃう」

くまさんは慌ててちんちんさんを全部お口にいれました。
温かいお水がお口に広がります。

まだまだラッチのお水は薄味。

さらさらのお水で、ちよつとしよっぱい涙のような。

「泣いちゃったの？」

「嬉しくて泣いちゃったんだよ、くまさん」

さめさんが教えてくれます。

「安心して。最後まで舐めてあげよう」

「う、うん……！」

その時、後ろから声がありました。

「ちんちんさんがおきたのかなあ、あれえ……はじめての子。
はじめましてだねえ……」

うしさんが、よいしょ、と起き上がってこっちに来ました。

「でも、ラッチさんが」

くまさんは困った顔。

「うしさんと交代で、お腹を出して寝ちゃった！」

「モモッ、そしたら一緒に起こしてあげよう」

「どうするの？」

「ちんちんさんが起きると、ラッチも起きるよ」

「じゃあ！」

みんなは、ちんちんさんとまだまだ遊びたいみたいです。

「だめ、だよお……」

ラッチの声がベッドの上で小さく響いていました。

☆ あとがき ☆

この度は「子リスのラッチとゆめのぬいぐるみ」をお手に取っていただき、
誠にありがとうございました。

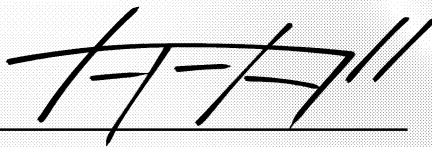
本作は、友人である日向まくら (https://x.com/makura_ms) 氏に
原作シナリオを依頼し、それを基に制作した作品です。

その結果、過去の作品では見られなかったような、
ストーリーやキャラクターに深みを持たせることができました。

そのため、導入部分に10ページ以上を費やしましたが、
この長めの導入があることで、最終的にメインシーンがより引き立ち、
非常に満足のいく完成度に仕上がったと感じています。

今後、ラッチとそのぬいぐるみたちの活躍をシリーズ化する予定ですので、
引き続き応援を賜りますようお願い申し上げます。

ナラシダ社 代表





子リスのラッチとゆめのぬいぐるみ

2025年1月19日 発行

発行総責任者
印刷所
連絡先

ナワシダ社 (Twitter: @Nawoshida)
同人誌印刷のK9
nawoshida@outlook.jp

本誌は日本国著作権法により保護されており、著作者の許諾なく転載や転売等を行うことは固く禁じます。

また、本誌を取り扱う上で生じたいかなる問題に関して、作者は一切の責任を負いかねます。

すべてのちんちんに、最大限の幸福を。

Nawoshida

Designed by nawoshida.com

